2026年 ロボット産業の勢力図：日米中比較

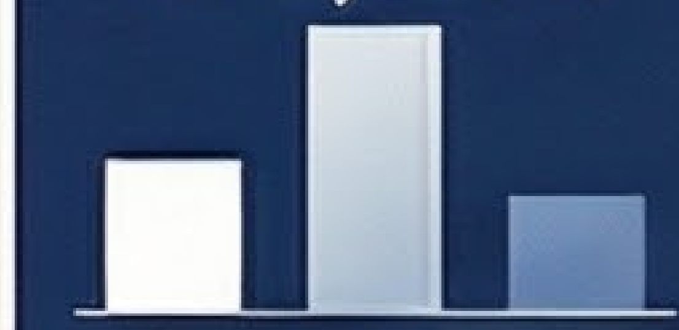
2026年時点のロボット産業における日本、米国、中国の勢力図。量的覇格の中国、AIでリードする米国、
高品質ハードウェアの日本の三者三様の戦略と、今後の技術トレンドを比較。

日本

高品質ハードウェアと現場実装力

2026年 主要指標の比較予測

新規導入台数（年間）


約50,000台

新規導入台数（年間）

稼働ロボット総数

約500,000台

稼働ロボット総数

ロボット密度（製造業1万人あたり）

約500台

ロボット密度

各国の強みと戦略的立ち位置

精密な基幹部品に強み

世界最大のロボット生産・輸出国としての地位を確立。

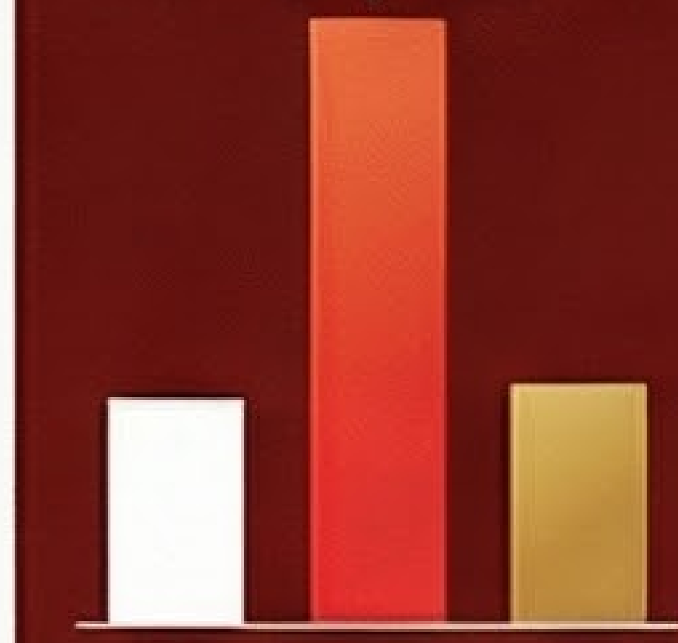
中国

圧倒的な「量」と「データ」が武器

2026年 主要指標の比較予測

新規導入台数（年間）

約320,000台


新規導入台数（年間）

稼働ロボット総数

日米の合計を大きく上回る

約2,400,000台

稼働ロボット総数

ロボット密度（製造業1万人あたり）

約600台

日本を上回り、世界トップクラスへ

各国の強みと戦略的立ち位置

圧倒的な「量」と「データ」が武器

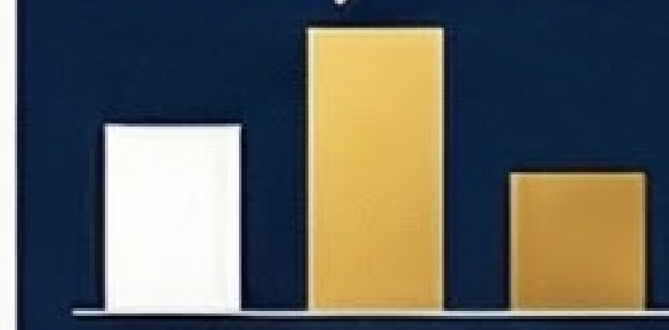
EV産業との産品[illegible]化でコスト競争力を高め、世界最大の市場から得られるデータでAIを改良。

米国

AI・ソフトウェアと高付加価値で主導

2026年 主要指標の比較予測

新規導入台数（年間）


約40,000台

新規導入台数（年間）

稼働ロボット総数

約450,000台

稼働ロボット総数

ロボット密度（製造業1万人あたり）

約350台

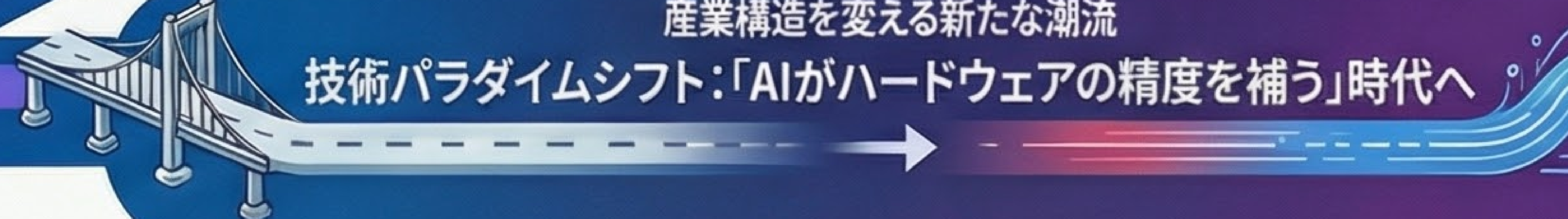
稼働台数での導入が進む一方、[illegible]の密度は日中に及ばない

各国の強みと戦略的立ち位置

AIプラットフォーム技術で先行

軍事・医療など高収益な分野で市場をリード。

産業構造を変える新たな潮流



技術パラダイムシフト：「AIがハードウェアの精度を補う」時代へ